

# 令和4年度 自己評価表

学校法人中村学園  
静岡福祉医療専門学校

※文部科学省「専修学校における学校評価について」

[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/shougai/senshuu/1332632.htm](https://www.mext.go.jp/a_menu/shougai/senshuu/1332632.htm)

専修学校における学校評価ガイドライン

## 1. 学校の教育目標

### <建学の精神>

パイオニア（開拓者）の精神を基調とし、益々高度化する現代社会の変化に対応、更に試行錯誤の中からクリエイティブな精神を培い、独立自尊以って広く国際社会に貢献できる人格の形成を重点とする。

### <校訓>

技術は力なり 我は我が道を行く How to 人間ではなく Why 人間の養成

### <静岡福祉医療専門学校 教育方針>

「21 世紀の医療福祉—高齢社会に対応できる福祉スペシャリスト（保育士・幼稚園教諭、社会福祉士、介護福祉士、社会福祉主事、訪問介護員、福祉レクリエーション・ワーカー、視能訓練士）の育成」

#### ○総合福祉学科の学習指導方針

「急速な少子・高齢化が進展するなか、複雑化・多様化・高度化する福祉・介護ニーズに対応できる中核的人材として、1年以上の実務経験を経て、高齢者、障害者、児童、生活困窮者など、福祉界全ての分野において活躍できる総合的な相談援助の力量を持つ福祉介護職を育成することを目的とする。」

#### ○介護福祉学科の学習指導方針

「共感性豊かで、専門的知識と技術に精通した介護福祉士の養成」  
確かな理論的基盤に立脚したコミュニケーション偽実・基本的人権・専門知識と技術の習得を行い、施設・在宅で生活している利用者の安全で快適な生活を援助でき、専門職としての高い倫理観を持った介護福祉士の養成を行う。

#### ○子ども心理学科の学習指導方針

「子どもたちの“こころ”と“からだ”の健やかな成長を見守り、あたたかいふれあいの『心』を大切にす保育士・幼稚園教諭を育成」

## ○視能訓練士学科の学習指導方針

「生活の質・視覚の質に貢献し、自ら考え行動できる視能訓練士の養成」

視覚機能の十分な知識と技術を有し、実践力はもとより、幅広い教養やコミュニケーション能力を伸ばし、豊かな人間性を備え、「見（見る）・視（知る）・観（経験する）・覧（判断する）・診（調べる）・看（世話する）」能力を育成する。

## 2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

### 【共通】

#### （１）建学の精神、校訓、教育方針について、学生理解の徹底

本学アドミッション・ポリシーのなかで、特に重要なキーワードについては頻繁に学生の理解を確認し、教育課程に反映できるようにする。

#### （２）CAN スカラシップ制度を実践的に運用

学科、学校のリーダーとして産学連携、他学科とのコラボレートなど、先導的な活動をさせる。教員の片腕となれるように責任をもって指導する。研究活動成果は企業にとってメリットとなり得るレベル・内容を目指す。また、その成果を広報面でも活用する。

現在、CAN スカラシップ制度を希望している学生が自主的に勉強会を始めている。この輪を広め、来年度の1年生でも参加でき、先輩が後輩に教える環境を整えていく。

### 【総合福祉学科】

①目標：時代と地域のニーズに応じた総合的力量を備えた福祉・介護専門職の育成に向け、教育内容を改正する。

計画：・社会福祉新カリキュラム完成年度に向け、教材と実習先を充実させる。  
・オンライン授業と対面授業を何時でも切り替え・併用できるようにする。  
・両校がコラボレーションしたフィールドスタディを発展させる。

### 【介護福祉学科】

①目標：時代と地域のニーズに応じた総合的力量を備えた介護専門職の育成に向け、教育内容を改正する。

計画：・挨拶、掃除等日常生活における基礎が自ら行える。  
・自主的に介護技術をトレーニングする。  
・学生一人一人のバックボーンを理解し、個別対応をする。  
・学生一人一人の能力を向上させる。  
・介護領域のSDGsを学ぶ。

②目標：積極的に時代と地域のニーズに応じた介護領域のSDGs活動に取り組む

計画：・インクルージョンの考え方を学ぶ。  
・お互いに個性を認め合うような授業やクラス運営を目指す。  
・自分たちに何ができるのか考え行動できる人材を育成する。

### 【子ども心理学科】

①目標：学生一人一人の成長を促す。

計画：・一人一人が理想の保育者像を持つ。

- ・職場体験や実習を通じて、理想の保育者を模索し、どうしたら近づくことができるのか、自分なりの保育者像を継続的に考える。

②目標：SDGs 活動に取り組む

計画：・それぞれの学年において SDGs について理解し、フィールドスタディに繋げていく。

### 【視能訓練士学科】

①目標：学生一人ひとりの医療人としての自覚を促し、現場で求められるマナー（挨拶、身なりなど）の習得ができるように指導する。

計画：・現場の視能訓練士と関わる機会を設け、現場で何が求められているかを明確にする。

- ・実習室入室のルールの基準を作成し運用することで、医療現場で働く自覚を促す。
- ・各自の自己実現のために何が必要かを自ら考えて行動できるように指導する。

②目標：3年後の国家試験を見据えて、教員一人ひとりの教育力（教授力、学生対応力など）の向上を目指す。

計画：・学習者像を明確にし、適切な指導を考えられるようにするために教員がこまめに情報共有する。

- ・学習者像に合った授業展開ができるように教授手技を検討する。
- ・国家試験解答解説作成、統一模擬問題作成、オリジナル問題作成を通して、国家試験対策に対応しうる教育力をつける。
- ・新カリキュラムにおいて学習項目の過不足がないか確認する。

## 3.評価項目の達成及び取組状況

※評価方法：適切・・・4、ほぼ適切・・・3、やや不適切・・・2、不適切・・・1

### (1) 教育理念・目標

評価項目	4段階評価
・学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4
・学校における職業教育の特色は何か	4
・社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	3
・学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	3
・各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

<p>①課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「建学の精神」と「校訓」の具現化に向けた日々の指導を行う。</li> <li>○新たな「教育方針」の意味を教員・学生、そして保護者に周知し、自らの言葉で表現できるようにする。</li> <li>○実習や就職、国家試験や各種試験に適應できる座学、演習、実習の内容を検討する。</li> </ul>
<p>②今後の改善方策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○引き続き、毎朝の SHR において、日々の時事問題と重ねながら「建学の精神」、「校訓」、「教育方針」の具現化に向けた課題を確認する。</li> <li>○後援会 総会、学級懇談会において保護者 全員に対して「建学の精神」、「校訓」、「教育方針」の意味を周知し、学期などの節目も必要に応じて保護者への連絡を行う。</li> <li>○ロールプレイを多用し、臨床に近い条件を経験できるようにする。</li> <li>○オンラインでも上述の趣旨を生かした授業ができるよう準備する。</li> <li>○学校関係者評価委員会、教育課程編成委員会のご意見をもとに、年度末までに具体策を策定・実施していく。その結果を年度末の学校関係者評価委員会、教育課程編成委員会で報告する。</li> </ul>
<p>③特記事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○年2回の学校関係者評価委員会、教育課程編成委員会の実施。学校関係者評価の公表（専修学校としての義務）。</li> <li>○月刊の機関紙・CAN ジャーナルを通じて、学校の様子を各家庭にも伝えている。</li> <li>○日ごろの教育活動を SNS で動画配信している。</li> <li>○シラバス、評価基準は公式ウェブサイト公開済（「高等教育の修学支援新制度」への対応）。</li> </ul>

(2) 学校運営

評価項目	4段階評価
・目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
・運営方針に沿った事業計画が策定されているか	4
・運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
・人事、給与に関する規程等は整備されているか	4
・教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	4
・情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

(3) 教育活動

評価項目	4段階評価
・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
・関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
・関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4
・授業評価の実施・評価体制はあるか	2
・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	4
・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
・人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	3
・関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	3
・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3
・職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

① 課題

- 授業評価の実施・評価体制が不十分な面がある。
- オンラインとリアル、それぞれの授業の方法と趣旨をすべての学生が理解し、スムーズに受講できるようにする。
- カリキュラム改正の趣旨を反映した教員の確保と実習施設・団体の開拓を行う。
- 各教員が自主的に研修を計画し、研修成果の共有をできるようにする。
- 外国人留学生の実習に向けて、実習施設の理解が得られた。今後も引き続き、受け入れ態勢を強化してもらう。

② 今後の改善方策

- 学科内で適切な授業評価を実施したい。

<p>○災害時、欠席、成績がD評価の場合など落ち着いて行動できるように、入学後・実習前など数回に渡り学生の手引きの重要性を啓蒙する</p> <p>○オンラインとリアルの授業の内容に格差がないよう、教員間で協力して準備を行う。</p> <p>○新カリの趣旨と要件に合致した教員を確保するとともに、卒業生に協力を依頼し、実習施設・団体を開拓する。</p> <p>○個々の教員の専門に基づいた研修を計画するとともに、職員会議に研修成果の共有の場を定期的に設ける。</p> <p>○実習前指導に加え、実習巡回時の状況を教員間で共有し、迅速に対応できるようにする。</p> <p>○コロナ禍、刻々と変わる実習受け入れ条件や実習施設の状況を教員間で共有し、学生指導に齟齬がないようにする。</p> <p>○学歴、教歴、実務経験のバランスに配慮し、変更された科目の趣旨に合致した教員を確保するとともに、卒業生に協力を依頼し、新たな実習施設・団体を開拓する。</p> <p>○個々の教員の専門・興味に基づいた研修は夏季動静機関に集中しているが、動静期間中（後）には研修成果の共有の場を設けていく。教育方法など、全体に共通するテーマの研修は、年間を通して計画的に行っていく。</p>
<p>③特記事項</p> <p>○コロナ感染等によるリモート授業については教員講師も学生もツールに慣れてきており、急に自宅待機になったとしても対応できるようになった。</p>

#### (4) 学修成果

評価項目	4段階評価
・就職率の向上が図られているか	4
・資格取得率の向上が図られているか	4
・退学率の低減が図られているか	3
・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4
・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

<p>①課題</p> <p>○入学後から前期の終了までに最も退学者が出やすい。保育者になるために必要な生活習慣・学力・意欲が伴わず、進路変更を希望する学生が毎年出てしまう。就活行動の遅い学生に対して、迅速に動けるような指導が必要。</p> <p>○求人の時期は早まる一方、学生の就職活動が遅れ気味になっている。</p> <p>○就職率は100%であるが、介護福祉士国家試験の合格率が100%に至らない。</p>
---

○卒業後のキャリアアップに向けての支援に偏りがある。○学生自身が自らの学力を客観的に理解できるようにする。

②今後の改善方策

○入学前指導では、知識を増やすことに重きを置いていたが、入学希望者がこれから保育者を目指すために学ぶこと・体験することを提示し、個々に努力すべきことを考え発表できるような内容を導入していきたい。

○学生の個性を見極め、臨地実習先での求人の有無を確認し、就職先の方向性を手引きする。

○就職希望を早期に固め、希望先の求人状況に合わせた活動と準備ができるようにする。

○国家試験対策の各種ツールを駆使し、個々の学生に合った試験対策ができるようにする。

○卒業後の進路変更やキャリアアップの希望が掴めるよう、SNSや同窓会ホームページを活用する。

○社会福祉士やケアマネジャーなど、卒業生の資格取得に対するニーズを把握し、個別に対応できる体制を整えていく。

○「卒業生を囲む会」以外にも卒業生の特別授業などを企画し、在校生と卒業生の交流を進めていく。

③特記事項

○「新たな生活様式」のなか、学生個々が抱える心理面、経済面、学習面などの課題に迅速に対応している。

○保護者との連携を密にし、学生の変化に速やかに対応・指導することができた。

○記念事業において開催した同窓会総会等を通じて、卒業生との情報交換を深めることができた。

(5) 学生支援

評価項目	4段階評価
・進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
・学生相談に関する体制は整備されているか	4
・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4
・学生の健康管理を担う組織体制はあるか	3
・課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
・学生の生活環境への支援は行われているか	4
・保護者と適切に連携しているか	4
・卒業生への支援体制はあるか	4
・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3

・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4
--	---

<p>①課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○臨地実習への対応力をつける。</li> <li>○学内外における学生の主体的活動を進める。</li> <li>○関係機関・団体の人材養成に対するニーズが十分に掘り起こせていない。</li> <li>○中学・高校とのキャリア教育の連携が滞っている。</li> <li>○学生への経済的支援を一層進めなくてはならない。</li> <li>○学生に対する個別支援は、問題対応へのウエイトが高く、主体性・可能性を伸ばす支援に傾注しきれていない。</li> <li>○関係機関・団体の人材養成に対するニーズが十分に掘り起こせていない。</li> <li>○中学・高校とのキャリア教育の連携が一部に留まっている。</li> </ul>	
<p>②今後の改善方策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○校内演習時から日誌の記載練習を課し、対応力を養う。</li> <li>○CAN スカラシップ制度を十分に活用し、学生の主体的な意欲を引き出した活動ができるよう支援していく。</li> <li>○実習先や就職先を中心にし、人材養成に対するニーズを引き出し、教育内容に反映する。</li> <li>○個々の中学・高校に対するアプローチに留まらず、ボランティア協会などと連携し、出前講座などを企画していく。</li> <li>○引き続き、初任者研修や実務者研修といった講座を実施し、通信制高校と連携した出前講座を行っていく。</li> <li>○CAN スカラシップを十分に活用し、学生の主体的な意欲を引き出した活動ができるよう支援していく。</li> <li>○実習先や就職先を中心にし、人材養成に対するニーズを引き出し、本学独自の講座を企画していく。</li> <li>○個々の中学・高校に対するアプローチに留まらず、ボランティア協会などと連携し、出前講座などを企画していく。</li> </ul>	
<p>③特記事項</p> <p>特になし</p>	

(6) 教育環境

評価項目	4段階評価
・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3



・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
・防災に対する体制は整備されているか	4

①課題	
○各学科において自由に使用できるモニターがない。	
○学生数や講義・演習の変化に対応した施設・設備の工夫。	
○各実習室環境整備のため、補助金の有効活用を行っていく。	
○災害や事故に対する組織的対応を周知徹底する。	
②今後の改善方策	
○学生からの視点を参考に、校内演習がスムーズに行えるような器機の配置を考える。	
○各実習室環境整備には多額の予算を要することでもあり、改善に向けた計画的な予算執行を行う。また、補助金も活用しつつ、機器・設備の改善を計画的に行っていく。	
○必要な場合は複数の教員で演習に応じる。	
○危機管理委員会と共に全教職員が防災に対する高い意識を持つ。	
③特記事項	
○研修修学旅行が従前の海外（グアム・ハワイ）に戻ることを想定し、準備を進める。	

(7) 学生の受入れ募集

評価項目	4段階評価
・学生募集活動は、適正に行われているか	3
・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
・学納金は妥当なものとなっているか	4

①課題	
○視能訓練士学科において、1年制から3年制に移行による受け入れ条件の違いや対応をスムーズにできるようにする。	
○各種ツールを駆使して、学科の特長のアピールを行う。	
○本学が輩出する人材育成に関して、高校生などが持つニーズを開拓する。	
○企画広報スタッフと、学科の魅力、特長ある授業の内容を共有する。	
○介護職希望の学生の取り込みを開拓しなくてはならない。	
②今後の改善方策	
○オープンキャンパスなどに、在校生・卒業生などに参加してもらい、生の声を届けられるようにする。	

<p>○新たに導入となった適職検査について、オープンキャンパス時に傾向と対策を伝え、丁寧に対応していく。</p> <p>○高校訪問や出前講座、各種イベントで分かり易くPRできる動画や映像を制作していく。</p> <p>○外国人留学生にも本学の情報が適切に伝わるよう、外国人卒業生から口コミで学科の特長と卒業後の成果をPRしてもらうようにする。</p> <p>○学科内のみではなく、教職員全員が各学科の特長をよく理解し、オープンキャンパス、高校訪問、出前講座において口コミで分かり易くアピールできるようにする。</p> <p>○卒業生からも母校をアピールしてもらうようにする。</p> <p>○毎回、オープンキャンパスの内容を充実させることに加え、年間を通したステップ（段階）が分かり易く伝わるようにする。</p> <p>○高校訪問や出前講座において分かり易くPRできるようにする。</p>
<p>③特記事項</p> <p>○介護福祉学科における外国人留学生の入学をコロナ禍前の水準に戻すようにする。</p>

## (8) 財務

評価項目	4段階評価
・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
・財務について会計監査が適正に行われているか	4
・財務情報公開の体制整備はできているか	4

## (9) 法令等の遵守

評価項目	4段階評価
・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
・自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	4
・自己評価結果を公開しているか	4

<p>①課題</p> <p>○個人情報保護法の理解と周知徹底を図る。</p> <p>○各学期末に授業評価が慌ただしく行われ、十分な時間が取られていない。</p>
<p>② 今後の改善方策</p> <p>○法令遵守に加え、職業倫理の観点から、個人情報保護の重要性を教員、そして学生に日々、周知徹底していく。</p> <p>○ICT や SNS などによる個人情報漏洩の危険性とその防止方法を具体的に周知する。</p>

○教員による授業全体の振り返りと、学生による授業評価が同時並行できるよう、時間に余裕を持った計画を立てていく。
③特記事項 ○個人情報の取り扱いについて、入学当初に確認書の提出を義務付けている。 ○個人情報に係る諸データは全てパスワード保護している。 ○年度当初に年間の重点目標を設定。半年ごとに学科・部署で点検を行い、次期への課題・改善策をまとめ、反映させている。年2回の学校関係者評価委員会で学校関係者から評価を頂き、まとめ、公開している。 ○高等教育の修学支援新制度認定を受け、成績評価基準、シラバス等について、最新の内容のものをオフィシャルウェブサイトで公開している。 ○職業実践専門課程認定学科については、適切な時期に別紙様式4を更新、オフィシャルウェブサイトで公開している。

(10) 社会貢献・地域貢献

評価項目	4段階評価
・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	4
・地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	3

① 課題 ○社会情勢に合わせて、静岡県眼科医会や静岡県視能訓練士の会など、各方面から情報を収集し、できることを模索する ○各種ボランティア活動を含めた地域貢献を一層積極的に行うよう、学年、学科、学校を超えたコラボレーションのあり方を検討する。 ○広報を兼ね、本学が有する高井専門性と実践力を地域に発信する企画を検討する。 ○リモートやSNSをうまく活用していきたい。
②今後の改善方策 ○今後も学生と共に情報収集を行っていく。 ○地域住民や関係機関・団体からのニーズを掘り起こし、学年、学科、学校を超えた持続的な地域貢献ができるよう環境整備していく。 ○本学の長をアピールできる講座などをオンライン、リアルなど、時流に合致した方法で企画できるようにする。 ○地域住民や関係機関・団体からのニーズを掘り起こし、学年、学科、学校を超えた持続的な地域貢献ができるよう、環境整備をしていく。

○本学の特徴を PR できる公開講座を学園祭以外にも企画し、マスコミにも働き掛け、広報活動にも生かしていく。
○学生たちが動き始めたクリエイティブな部活動を支援する。
③特記事項
○県からの委託事業（離職者訓練、長期人材育成）を受け入れている。

(11) 国際交流

評価項目	4段階評価
・留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか	4
・留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか	4
・留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか	4
・学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	3

①課題
○留学生の受け入れが増えているが、学習支援、生活指導の課題の整理は途上である。
○技能実習生を対象にした初任者研修などを準備していたが、新型コロナウイルスの影響で受け入れ施設の都合がつかず、実施できていない。
○留学生の受け入れが増えているが、学習支援、経済的配慮、生活指導の課題の整理はいまだ途上であり、体系的な支援ができていない。
②今後の改善方策
○留学生支援の体制、特に経済的支援の体制を整備し、留学生が学び易く、成果が出せるような環境整備を行っていく。
○留学生以外にも、技能実習生を受け入れている施設からの研修依頼を受けていく。
○実際に留学生を受け入れている学科に留まらず、学校全体で留学生支援の体制を整備し、複数の国からの留学生の受け入れを積極的に行っていく。
○留学生以外にも、技能実習生を受け入れている施設からの研修依頼を受けていく。
② 特記事項
○留学生に対する日本語能力試験への対応、日本語会話力向上をサポートしている。

以上